

## 第17回気仙沼市震災復興推進会議について(開催概要)

1 日 時：平成28年3月23日(水)午後2時～午後4時

場 所：ワン・テン庁舎 大ホール

出席委員：36人(代理を含む。欠席6人)

### 2 議事内容

・復旧・復興事業の進捗状況について

### 3 主な質疑等

・JR気仙沼線のBRTによる復旧に伴い、今後どのくらいの線路跡がBRT専用道として利用されるのか。また、専用道化しない線路跡はどのように利用される予定なのか伺いたい。

⇒線路跡の90%についてBRTの専用道化がなされる予定である。一方、残る10%部分である本吉駅の北側から大谷にかかる箇所については、専用道化できないとJRから示されている。市としては、この10%部分について、防潮堤の整備に活用していきたいと考えており、その旨をJRへ要望し、協力いただける旨の回答を得たところである。具体的な内容はこれから協議、検討を進めて行くことになる。

・松崎尾崎地区の防災公園整備について、5年前の震災規模の津波が発生した場合に、計画の築山の高さでは不十分で危険なように思うが、どのような考えで設定したものなのか伺いたい。

⇒防災公園は、漁業者の方や何らかの理由によって津波到達時間までに避難場所、避難所にたどり着けないという方が、一時的に避難できる場所ということで整備を進めているものであり、一次避難所とは異なるもの。避難は地続き、高台の避難場所、避難所に避難することが原則であって、防災公園は津波が発生したらここに逃げるといった性質のものではないことから、機会あるごとに趣旨についてお知らせをしてみたい。また、築山の高さは、県において防災公園の一時避難地とする際の築山の高さを指定しており、それに基づいて設定している。

・BRTによる本格復旧の受入れに伴う、気仙沼駅前地区における地域振興について、総合的なまちづくりの観点から施策を進めていただきたい。また、施策を進めるにあたっては、市が主導となり、商工会議所や地域住民と話し合いの場を持てるよう検討してほしい。

⇒交通対策については28年4月から本市震災復興・企画課のもとに総合交通政策室を設け、BRTに限らず様々な交通について検討していくこととしている。BRTの本格導入にあたっては、JRサイドで利用者懇談会を設ける方向で話をしている。これらと合わせて、地域の皆さまと今後の展開について検討を進めていければと考えている。

・新たに整備される魚市場のランニングコストに関しては、受益者負担が原則なのだろうが、最終的なし寄せが水産関係者にこないように市として対応をお願いしたい。

また、従来、停船していた漁船は、道路の通行人の目が抑止力になり、防犯上守られてきた。防潮堤建設により、この防犯機能が低下してしまうことが想定される。このことについて県でも対応を検討していると思うが、市としてはどのように考えているのか伺いたい。

⇒基本的には益を受ける人が負担することなのだと思うが、本市の水産関係の方々も実際本当に益を受けるのかどうか定かではない状況にあることは市としても理解している。実際にこれまでの様々な水産物の取引を見ると、中間の方や生産者の方がしてきた負担については、消費者が最終的に負担をしていただけていないというのが実態だと思う。原則は原則としながらも、

皆様から理解を得られるような形で対応を考えていかなければいけないと思っている。  
防潮堤については、県に海岸保全計画というものがあるのだが、そこに今回港町の出港岸壁の景観配慮を入れてもらった。というのも、このままそこに TP5.0 の防潮堤がたつと、道路から船が全く見えなくなり、防犯面や景観上甚だ問題であるため。防潮堤の計画について、市からは 1m のフラップゲートを 2m に大きくし、船が見えるような形での整備を求めているところである。今後も地域の方に十分に説明をして合意を得て進めていきたい。

・海水浴場や砂浜の工事の進捗や今後の展望と、大谷海岸の道の駅の構想があれば伺いたい。

⇒中島海岸、小泉海岸については、海水浴場として復活するように工事をしているところである。防潮堤の先が海水浴場になるが、現在たてている防潮堤はももとの海岸から 200m 程度後退させてつくっており、その外側に砂浜を整備する予定である。

御伊勢浜については、調査を行い、このままでは砂は戻らないだろうという結果がでていいる。さらなる調査が必要かもしれないが、お金をかければ戻るかどうなのかという見極めが必要と考えている。小田の浜については、一度砂が流出したが、段々戻ってきているので、今年の夏も海水浴場として利用できることを想定している。

大谷海岸は、地元からの要望も受け、国道 45 号線そのものをかさ上げし、防潮堤と兼用堤にする方向でやりとりをしている。しかし、45 号線が高くなると北側にあるお店がなくなる（道路の下に店がある状態になってしまう）ので、そこを埋める必要があるが、その工事を復興予算でできないと言われているため、努力しているところである。なお、45 号線をかさ上げたとしても、多くの車が三陸道を通ることが考えられ、大谷海岸が道の駅として成り立つのかという問題もある。慎重な見極めが必要だが、道の駅と合わせて BRT 駅についても一緒に考え、この 2 つが相まって誘客ができ、かつ持続可能なものにするために検討していく。ただ、45 号線のかさ上げ工事は迂回路をつくりながらできないので、膨大な時間がかかる。なるべく早く復旧をしたいが、市の復興事業の中でも相当なレベルの大事業であるので、将来的に負の遺産にならないようしっかりと進めていきたい。

・漁業用燃油施設整備事業について、着工までに関係者に説明するということがあったが、現在の状況について伺いたい。

⇒現在、施設整備に係る財源の確保を調整している段階である。着工まではまだ時間がかかるため、目途が付いた段階で広く関係者の皆様に説明させていただきたいと考えている。

・旧鹿折みどりのふれあい広場の公営墓地化に伴い、接続している道路が狭く、曲がりくねっていることから、工事期間中は交通に支障が出るものと思われる。歩行者や通行者の安全確保について、現時点で検討していることがあれば伺いたい。

⇒これから業者を選定していく段階であるが、工事期間中の安全への配慮については、十分に工程を精査しながら安全確保につとめていく必要があると考えている。

・男女共生、とりわけ女性政策について、一億総活躍社会や女性の輝く社会が目指されている中で、市として今後どのように取り組んでいくのか伺いたい。また、働く女性が結婚をしても、子育てしながらも、健康でずっと働き続けることができるような仕組みや、それを目指すための話し合いの場を設けてほしい。

⇒市では全庁的な取組として、市男女共生基本計画に基づき、関係部署による横断的な連絡調整会議を行うこととしている。震災以降なかなか開催することができなかったが、基本計画が来年度で終了することから、来年度に次期基本計画を策定し、再来年度から施行という形で会議を進めようとしている。その計画の中では、男女共生の状況と様々な課題を整理し、見直しをしていきたいと考えている。

市ではこれまで人材の発掘・育成の観点から、経営未来塾やぬま大学、ぬま塾などの若手の方々を対象としたものを実施してきたが、28年度には女性のアクティブウーマンズカレッジ、50代・60代で退職した方のこれまでに培ってきたノウハウを地域づくりに生かしてもらおうというアクティブコミュニティ大学をつくり、そういった方々がお互いに磨き合えるような場を設けようと進めているところである。

- ・災害公営住宅や仮設住宅に住む高齢者から、交通の便が悪く、外出する機会が減っているという意見を聞いている。市内を周遊し、低料金で利用できるコミュニティバスのようなものを導入してはどうかと思うが、どう考えているか伺いたい。

⇒現状でも、市から路線バス運行に支出している補助金は多額であり、よりふさわしい交通体系の中でどのように予算を配分していくかという観点と事業者がある程度の収益をあげられるような形での運用ということを考えると、なかなか低料金での実現は難しい。いただいたご意見も踏まえて、市内の公共交通がどのようにあるべきなのか、コミュニティバスや基幹道路におけるバス路線の配置やBRTの活用、ルートの見直し等も含めて総合的に検討していきたい。

#### 4 その他

28年度以降の会議回数については年2回とし、必要があれば随時開催とする。